

関戸公民館で「まなび」「つどい」「つながる」事業 “あれこれ”

公民館は、市民の社会教育活動を推進するため、地域課題を踏まえた各種講座や市民活動の支援を行っています。今回は関戸公民館「いち推し」の事業についてお知らせいたしますので、ぜひ取材をお願いいたします。

1 「こどものまち たま」

日時：2月10日(土)・11日(日)・12日(月・祝)、午前10時～午後4時30分

場所：関戸公民館 ヴィータホール

内容：詳細はチラシ裏面のとおり

※「こどものまち たま」は、7歳から15歳までの子どもだけが運営する、子どもがつくる小さな仮想の“まち”多摩市版である。仮想街での職業体験・自治を通して、「自分たちで自由に考え、自主的にやってみること」「仲間との協力や衝突を通して人と繋がること」「自治の仕組みづくりに参加すること」を狙いに、市民団体「チームミニたま」が関戸公民館と共催で実施する。（「こどものまち」は、ドイツのミュンヘン市で8月の夏休み期間3週間だけ誕生する仮設都市「ミニミュンヘン」がモデルになっており、日本各地で広がっている。<http://www.mi-mue.com/>参照）

2 市民講座「知られざる橋の世界」もっと知ろう「多摩の橋のこと、東京の橋のこと」

日時：①2月17日(土)・24日(土)、午後2時～4時

場所：関戸公民館 大会議室

講師：紅林章央氏(公益財団法人東京都道路整備保全公社道路アセットマネジメント推進室長、元東京都建設局橋梁構造専門課長)

内容：詳細はチラシ裏面のとおり

※昭和になるまで、この地域の多摩川には鉄道橋を除き橋が架けられていなかった。多摩ニュータウンも含めた多摩地域の橋の魅力とその謎に迫る。また、関東大震災から100年、この災害によるインフラ復興に関わった技術者たちの想いも探り、単に「渡る」ための「構造物」という視点だけではなく、橋梁の過去・現在を知ることで人や文化が交流し、つなぐ、まさに架け橋としての橋梁を、市民のアイデンティの一つという視点で見直す機会として実施する。

※本講座はすでに定員に達しています

3 多摩市公民館 50 周年記念事業 井田寛子氏特別講演会

「近年の異常気象と気候変動

～気候変動問題について日本のテレビ放送はどう伝えてきたのか～

日時：3月9日(土)、午後2時～4時

場所：関戸公民館 ヴィータホール

講師：井田寛子氏(気象予報士・キャスター)

内容：チラシのとおり

※多摩市公民館は昨年開設 50 周年を迎えた。その大きな節目に、私たちの生活と密接に関わり、この先の未来も避けては通れない「気候変動」と、学びの要とも言える「メディア」をテーマに特別講座を実施する。なお、多摩市では令和2年に気候非常事態宣言を表明し、令和5年度には多摩市気候市民会議を開催する等、地球温暖化対策について取り組みを進めているため、永山・関戸両公民館と環境政策課との共催事業として実施する。

※50周年記念事業としてはこのほか TAMA 映画フォーラム特別上映会(2/17「すべての夜を思いだす」。催し物3参照)、デジログ運動会～ゲーム&スポーツ大会(2月の定例記者会見でお知らせ予定)を実施する。

4 たま学びテラス総括イベント 若宮正子氏講演会

「実り多い豊かな人生 私は創造的でありたい

～変化する時代を生き抜くための“学び続ける力”

日時：3月17日(日)、午後1時30分～3時

場所：関戸公民館大会議室

*ライブビューイング会場=関戸公民館第3学習室、消費生活センター講座室(ベルブ永山)、日野市中央公民館

講師：若宮正子氏(ITエバンジェリスト、デジタル庁デジタル社会構想会議構成員ほか)

内容：チラシ参照

※たま学びテラスは「多摩・島しょ広域連携活動助成金」を活用し、日野市と連携して広域的な学習活動を展開するもので、今年度最終年。そこでこれまでの総括として「学びに年齢は関係ない」という視点で、ACジャパンのCMでもおなじみの世界最高齢のプログラマーである若宮氏に学び続ける力について語っていただく。

※総括事業としてはこのほかプログラミング体験や、これまでの活動についての展示を検討中

<別添資料> 各事業チラシ

問い合わせ

教育部関戸公民館

電話：042(374)9711